



## 消防の広域化をサポートし、 地域社会の安心・安全に貢献。

社会システム事業本部  
交通・防災システム事業部 システム第二部  
消防システム担当部長  
松尾 精二

### 広域化消防に対応した「高機能消防指令センターシステム」。

学生の頃からコンピュータ技術に興味を持ち、大学では工学部の情報通信工学科に在籍。情報系のソフトウェアを専攻していました。就職活動では、地元・静岡へのUターンを希望していたところ、担当教授から当時の沖ソフトウェア（OSK）が静岡センターを開設すると聞き、迷わず応募。この頃は、ソフトウェア・クライシス（ソフト技術者の人材不足）が叫ばれ、メーカー系・ユーザー系・独立系とさまざまなソフト会社が群雄割拠の時代。さらにバブル期ということもあって、何の苦勞もなく就職できました。今では信じられないような話ですが…。

OSK入社後は、航空管制システムなど、主に公共システムのソフトウェア開発を担当。この頃のソフト開発は、現在と比較すると開発支援ツールも脆弱で、ソースコードを印刷した紙面上でバグを見つけ出す『机上デバッグ』や、『パッチ当て』などという作業に追われていました。そして、完成したプログラムは、ROMに焼いて基板に実装。今から思えば、とても原始的な作業です。その後、入社4年目には、沖システム開発東海（当時）に転籍となり、念願のUターンを果たすと同時に、この頃から消防情報支援システムを手掛けるようになりました。以来、所属部署が変わっても、一貫して消防関連システムの開発に携わっています。

現在、総務省消防庁は、住民サービスの向上や、人員配置の効率化と充実化、消防体制の基盤強化などを目的に、近隣市町村の消防を統合する消防の広域化を推進しています。OKIとしても、これら消防行政の施策への対応を進めてきました。そして、今回、私たちが開発したのが、広域化消防に対応した「高機能消防指令センターシステム」です。これは、119番通報を受け、災害地点の特定から出動車両の自動選定、出動指令などの各種情報を一括処理し、無線通信

により現場をサポート。さらに、指令系システムと支援系システムの連動によるデータメンテナンスの統一化の実現や、署所、出張所などの各出先に対して、音声合成による指令を同報することができるなど、消防業務の効率化に貢献します。

開発に当たっては、出動指令の際の消防署員出退勤情報との連動など、技術的にクリアしなければならない問題もいくつかありました。しかし、それよりも統合対象となる各消防署のニーズの集約や調整といった業務に苦心しました。紆余曲折はありましたが、関係各位の協力もあり、開発作業は順調に進んでいます。現在は、来年2月から順次予定されている納品に向けて、スタッフの尻を叩いているところです。

消防関連システムは、地域住民の安心・安全を見守るための必要不可欠な社会インフラであることはいうまでもありません。今後も私たちは、行政側の動向や最先端の技術動向などを注視しながら、システムの高度化・高機能化を推進するつもりです。直近の課題としては、自治体が運用する他の防災関連システムとの連動や、119番通報をメールなど電話以外の通信手段で受け付けるバリアフリー化などがあります。また、2016年5月には、アナログの消防無線が停波となりデジタルに完全移行するため、ここ3年間は、その切替え案件が集中するものと思われます。そのようなニーズに対しても、スムーズに対応できる社内体制の強化も推進していきます。そう考えると、取り組むべき課題ややるべきことが山積し、当分の間は、多忙な日々が続くような気配ですね。いずれにしても、今後とも行政や社会のニーズに即応する高機能で使いやすいシステムを提供し、地域社会の安全に貢献していくつもりです。ご期待ください。